BIOS Setup (AMD X670/B650 Series)

BIOS セットアップ 2
起動画面 3
メインメニュー 4
Smart Fan 6 6
Favorites (F11) 8
Tweaker 9
Settings 13
System Info. 21
Boot 22
Save & Exit 25

このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードによって異なることがあります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウエアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフ テスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または Q-Flash Plusのいずれかを使用します。

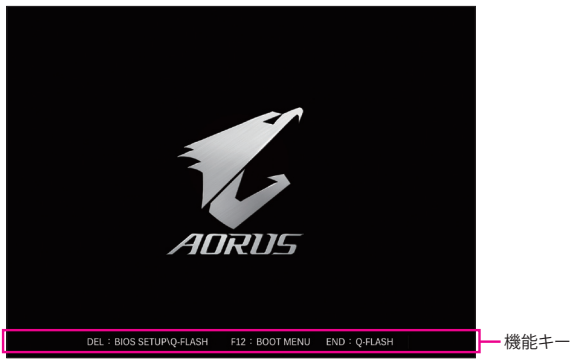
- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- Q-Flash Plus では、システムの電源が切れているとき (S5シャットダウン状態) に BIOS を更新することができます。最新の BIOS を USB メモリに保存して専用ポートに接続すると、Q-Flash Plus ボタンを押すだけで自動的に BIOS を更新できます。

Q-Flash および Q-Flash Plus ユーティリティの使用に関する使用説明については、GIGABYTEのウェブサイトの「独自機能」ページに移動し、「BIOS Update Utilities」を検索してご参照ください。

- BIOSの更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤ったBIOS設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。
- CMOSクリアする方法については、ユーザーズマニュアルのバッテリ/ CMOSクリアジャンパ/ボタン概要を参照して、または GIGABYTE ウェブサイトの「BIOS セットアップ」ページにアクセスし、「Load Optimized Defaults」で CMOS 値をクリアする方法を検索してご参照ください。

起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。(画面はマザーボードによって異なる場合があります。)



機能キー：

<DEL>:BIOS SETUP\Q-FLASH

<Delete>キーを押してBIOSセットアップに入り、BIOSセットアップでQ-Flashユーティリティにアクセスします。

<F12>:BOOT MENU

起動メニューにより、BIOS セットアップに入ることなく第 1 起動デバイスを設定できます。起動メニューで、上矢印キー <↑> または下矢印キー <↓> を用いて第 1 起動デバイスを選択し、次に <Enter> キーを押して確定します。システムはそのデバイスから起動します。

注：起動メニューの設定は 1 回のみ有効です。システム再起動後のデバイスの起動順序は BIOS セットアップの設定の順序となります。

<END>:Q-FLASH

<End> キーを押すと、先に BIOS セットアップに入る必要なく直接 Q-Flash Utility にアクセスします。

メインメニュー

Advanced Mode

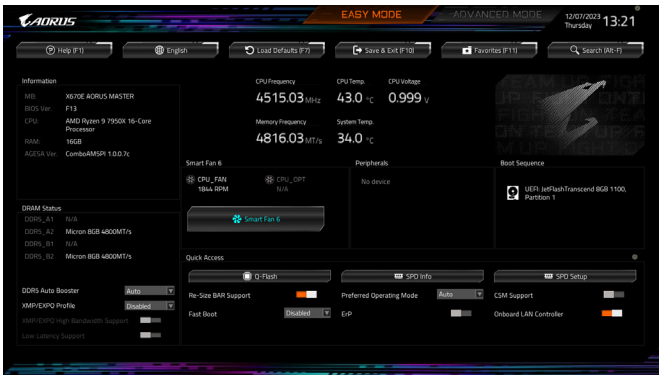
Advanced Modeは、詳細なBIOS設定をすることができます。キーボードの矢印キーを押すことにより設定項目を切り替えることができ、<Enter>を押すことでサブメニューに入ります。また、マウスを使用して項目に選択することもできます。

Advanced Modeのファンクションキー

<←><→>	選択バーを移動させてセットアップ メニューを選択します。
<↑><↓>	選択バーを移動させてメニュー上の設定項目を選択します。
<Enter>/Double Click	コマンドを実行するかまたはメニューに入ります。
<+>/<Page Up>	数値を上昇させるかまたは変更を行います。
<->/<Page Down>	数値を下降させるかまたは変更を行います。
<F1>	ファンクションキーについての説明を表示します。
<F2>	Easy Mode に切り替えます
<F3>	現在のBIOS設定をプロファイルに保存する。
<F4>	以前に作成したプロファイルからBIOS設定をロードします。
<F5>	現在のメニュー用に前の BIOS 設定を復元します。
<F6>	Smart Fan 6の画面を表示する。
<F7>	現在のメニュー用に最適化された BIOS の初期設定を読み込みます。
<F8>	Q-Flash Utility にアクセスします。
<F10>	すべての変更を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します。
<F11>	Favorites (お気に入り) サブメニューに切り替える。
<F12>	現在の画面を画像としてキャプチャし。USB ドライブに保存します。
<Insert>	お気に入りのオプションを追加または削除する。
<Ctrl>+<S>	取り付けられているメモリの情報を表示します。
<Esc>	メインメニュー：BIOS セットアッププログラムを終了します。 サブメニュー：現在のサブメニューを終了します。

B. Easy Mode (Easy モード)

Easy Mode は、迅速に現在のシステム情報を表示したり、最適なパフォーマンスを引き出すために調整を行うことができます。Easy Mode とAdvanced Mode の画面に切り替えるには、<F2>キーを押して簡単に切り替えることができます。



Smart Fan 6

ファンクションキー<F6>を使用して、この画面にすばやく切り替えます。この画面では、各ファンヘッダのファン速度関連の設定や、システム/CPUの温度監視を行うことができます。

☞ **TUNE ALL**
現在の設定をすべてのファンヘッダに適用します。

☞ **Temperature**
選択された領域の、現在の温度を表示します。

☞ **Fan Speed**
現在のファン/ポンプ速度を表示します。

☞ **Flow Rate**
水冷システムの流量を表示します。**Fan Speed** 項目で<Enter>キーを押すと、この機能に切り替わります。

☞ **Fan Speed Control**
ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

- ▸▸ Normal　温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。
- ▸▸ Silent　ファンを低速度で作動します。
- ▸▸ Manual　グラフ上の基準点をドラッグしてファンの回転数を調整することができます。または **EZ Tuning** 機能を使用することもできます。基準点の位置を調整した後、**Apply** を押すと、自動的にカーブの傾きが計算されます。
- ▸▸ Full Speed　ファンを全速で作動します。

☞ **Fan Control Use Temperature Input**
ファン速度コントロール用の基準温度を選択できます。

☞ **Temperature Interval**
ファン速度変動用の温度間隔を選択できます。

☞ **FAN/PUMP Control Mode**

- ▸▸ Auto　BIOSは、取り付けられたファンのタイプを自動的に検出し、最適の制御モードを設定します。
- ▸▸ Voltage　電圧モードは、3ピンのファン/水冷ポンプ用ファンです。
- ▸▸ PWM　PWMモードは、4ピンのファン/水冷ポンプ用ファンです。

☞ **FAN/PUMP Stop**

Fan/Pump Stop 機能を有効または無効設定することができます。温度曲線を使用して温度制限を設定できます。ファンまたはポンプは、温度が限界値より低いと動作を停止します。

☞ **FAN/PUMP Mode**

ファンの動作モードを設定します。

- ▸▸ Slope　温度に応じてファンの回転数をリニアに調整します。
- ▸▸ Stair　温度に応じてファンの回転数を段階的に調整します。

☞ **FAN/PUMP Fail Warning**

ファン/水冷ポンプ用ファンが接続されている状態で異常が発生した場合、システムは警告を知らせます。警告があった場合、ファン/水冷ポンプ用ファンの接続状態を確認してください。

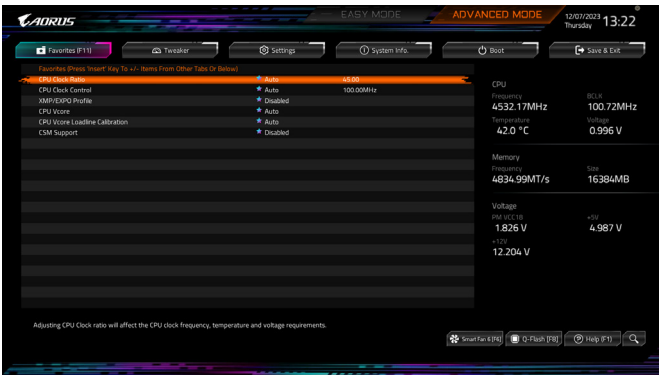
☞ **Save Fan Profile (F3)**

この機能により、現在の設定をプロファイルに保存できるようになります。BIOS 上のプロファイルを保存するか、**Select File in HDD/FDD/USB** を選択して、ストレージデバイスにプロファイルを保存することができます。

☞ **Load Fan Profile (F4)**

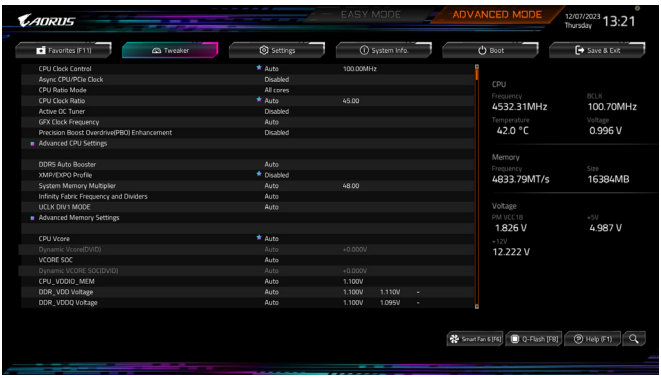
この機能を使用すると、BIOS設定を再設定する手間をかけずに、以前に保存したBIOS上のプロファイルをロードすることができます。または、**Select File in HDD/FDD/USB** を選択して、ストレージデバイスからプロファイルをロードすることができます。

Favorites (F11)



よく使うオプションをお気に入りに設定し、<F11>キーを押すと、すべてのお気に入りオプションがあるページにすばやく切り替えることができます。お気に入りのオプションを追加または削除するには、元のページに移動してオプションの<Insert>を押します。「お気に入り」に設定すると、オプションに星印が付きます。

Tweaker



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違って設定して動作させると CPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOS設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)

☞ **CPU Clock Control**
CPUベースクロックを 1 MHz 刻みで手動で設定します。
重要：CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定することを強くお勧めします。

☞ **Async CPU/PCIe Clock**
CPU/PCIe の非同期クロックを可能にします。

☞ **CPU Ratio Mode**
すべてのCPUコアまたは個々のコアの倍率を設定できます

☞ **CCD0 CCX0/1 Ratio**
CPU CCX0、1コアの倍率を手動で設定できます。**CPU Ratio Mode** が **Per CCX** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。(既定値：Auto)

☞ **CPU Clock Ratio**
取り付けた CPU のクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。

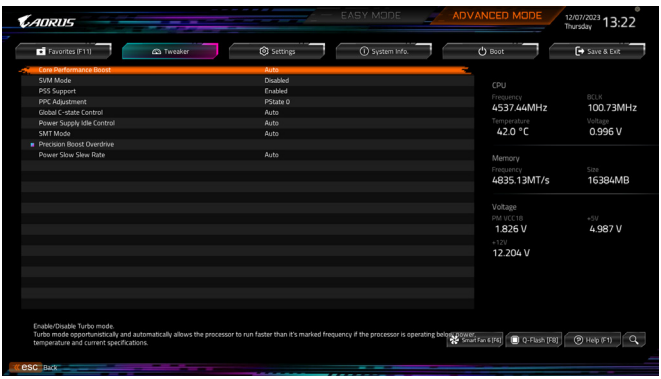
☞ **Active OC Tuner**
Active OC Tuner 機能を有効または無効にします。

☞ **GFX Clock Frequency**
GPUの周波数を変更できます。注：調整可能範囲は、取り付ける CPU によって異なります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します

BIOS の設定の中には、マザーボードのチップセットと使用する CPU / メモリがその機能をサポートしている場合のみ利用できるものがあります。AMD CPU の固有機能の詳細については、AMD の Web サイトにアクセスしてください。

☞ **Precision Boost Overdrive(PBO) Enhancement**
CPU 温度 90/80/70℃ の3つのターゲットに対して5段階のブーストレベルを提供します。最適な温度制限とブーストレベルの組み合わせを選択することで、より高い CPU 周波数を実現します。注：CPU の状態によって、実行可能な設定や結果が異なります。

■ Advanced CPU Settings



☞ **Core Performance Boost Ratio**
コアパフォーマンスブースト (CPB)技術の有効/無効の設定をします。

☞ **SVM Mode**
仮想化技術によって強化されたプラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化技術では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。

☞ **PSS Support**
ACPI_PPC、_PSS、および _PCT オブジェクトの生成を有効または無効にします。

☞ **PPC Adjustment**
CPU の PState を固定できます。

☞ **Global C-state Control**
CPUのC ステート状態の設定ができます。有効に設定した場合、CPUコアの周波数をシステム低負荷時に減少させ、消費電力を低減させます。

☞ **Power Supply Idle Control**
Package C6 Stateを有効または無効にします。
- ▸▸ Typical Current Idle　この機能を無効にします。
- ▸▸ Low Current Idle　この機能を有効にします。
- ▸▸ Auto　BIOSでこの設定を自動的に構成します。

☞ **SMT Mode**
CPU Simultaneous Multi-Threading 機能を有効または無効に設定できます。

■ Precision Boost Overdrive
CPU のクロックと動作性能を自動的に上げるかどうかを設定します。

☞ **Power Slow Slew Rate**

Power Slot Slew Rate の異なるレベルを選択可能です。

☞ **DDR5 Auto Booster**

DDR5 Dynamic Turbo Boost 機能を有効または無効にします。この機能により、デフォルトの周波数とブーストされた周波数を自動的に切り替えることができます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

☞ **XMP/EXPO Profile**

有効にすると、BIOSがXMP/EXPOメモリモジュールのSPDデータを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。XMP または EXPO メモリーモジュールを装着した場合のみ選択可能です。

☞ **System Memory Multiplier**

システム メモリマルチプライヤの設定が可能になります。**Auto** は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。

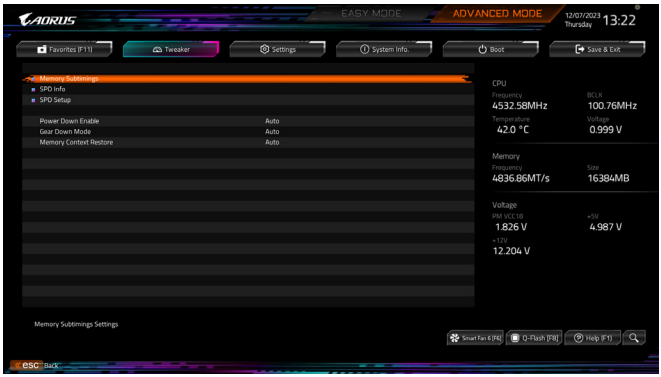
☞ **Infinity Fabric Frequency and Dividers**

FCLKの周波数を設定できます。

☞ **UCLK DIV1 MODE**

UCLK DIV1 モードを指定できます。

■ Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)



■ Memory Subtimings

▼ Standard Timing Control, Advanced Timing Control, Data Bus Configuration

これらのセクションでは、メモリのタイミング設定を変更できます。注：メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

■ SPD Info

取り付けられているメモリの情報を表示します。

■ SPD Setup

搭載されているメモリのパラメータを設定することができます。

☞ Power Down Enable

Power Down のサポートを有効または無効にします。

☞ Gear Down Mode

Gear Down モードの有効/無効。

☞ Memory Context Restore

メモリコンテキストのリストアモードを設定できます。有効にすると、DRAM の再トレーニングが可能な限り回避され、POST レイテンシが最小化されます。

☞ CPU Vcore/Dynamic Vcore(DVID)/VCORE SOC/Dynamic VCORE SOC(DVID)/CPU_VDDIO_MEM/DDR_VDD Voltage/DDR_VDDQ Voltage/DDR_VPP Voltage

これらの項目で CPU Vcore とメモリ電圧を調整することができます。表示される項目や値は、マザーボードのチップセットや使用する CPU によって異なる場合があります。

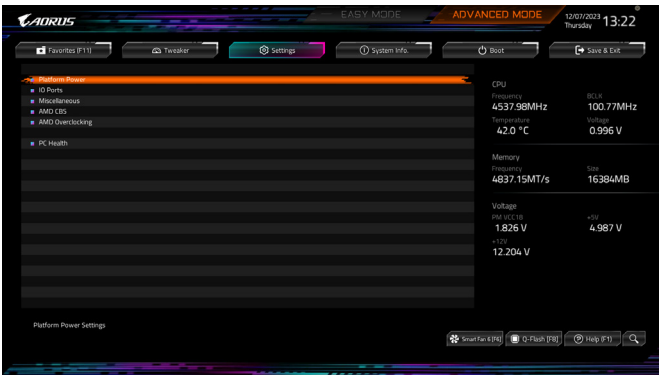
■ Advanced Voltage Settings

VDDG/VDDP やその他の電圧設定を調整可能です。

■ CPU/VRM Settings

このサブメニューでは、負荷線校正(Load-Line Calibration)レベル、過電圧保護レベル、過電流保護レベル、および PWM フェーズを設定できます。

Settings



■ Platform Power

☞ AC BACK

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

- ▸▸ Memory　AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。
- ▸▸ Always On　AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。
- ▸▸ Always Off　AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままです。

☞ ErP

S5 (シャットダウン) 状態でシステムの消費電力を最小に設定します。
注：この項目が **Enabled** に設定されているとき、Resume by Alarm 機能は使用できなくなります。

☞ Soft-Off by PWR-BTTN

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。

- ▸▸ Instant-Off　電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。
- ▸▸ Delay 4 Sec.　パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

☞ Power Loading

ダミーローディング機能の有効/無効を切り替えます。パワーサプライユニットのローディングが低いためにシステムのシャットダウンや起動に失敗する場合は、有効に設定してください。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

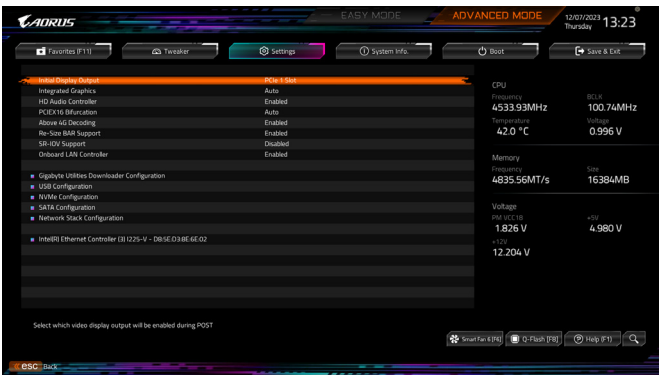
☞ **Resume by Alarm**

任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。
有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:

- Wake up day:ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。
- Wake up hour/minute/second:自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注：この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたはAC 電源の取り外しはしないで下さい。そのような行為をした場合、設定が有効にならないことがあります。

■ IO Ports



☞ **Initial Display Output**

取り付けた PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。

- IGD Video　最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。(この機能をサポートするCPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。)
- PCIe 1 Slot　最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットにあるグラフィックカードを設定します。

☞ **Integrated Graphics**

オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。

- Auto　グラフィックスカードがインストールされているかによって、BIOS はオンボードグラフィックスを自動で有効または無効にします。
- Forces　オンボードグラフィックスを有効にします。
- Disabled　オンボードグラフィックスコントローラを無効にします。

☞ **UMA Mode**

UMAモードを指定する。

- Auto　BIOSでこの設定を自動的に構成します。
- UMA Specified　UMAフレーム・バッファの大きさを設定します。
- UMA Auto　ディスプレイ解像度を設定します。
- UMA Game Optimized　合計システムメモリ容量に基づいてフレーム・バッファの大きさを調整します。

Integrated Graphics が **Forces** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **UMA Frame Buffer Size**
フレームバッファサイズは、オンボードグラフィックスコントローラに対してのみ割り当てられたシステムメモリの合計量です。例えば、MS-DOSはディスプレイに対してこのメモリのみを使用します。オプション：Auto (既定値)、64M~16G。**UMA Mode** が **UMA Specified** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **HD Audio Controller**
オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。
オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製アドインオーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。

☞ **PCIEX16 Bifurcation**
PCIEX16 スロットの帯域幅をどのように分割するかを決定できます。調整可能な範囲は、CPU により異なる場合があります。

☞ **Above 4G Decoding**
64 ビット対応のデバイスは、4 GB 以上のアドレス空間でデコードすることができます。（お使いのシステムが 64 ビット PCI デコードをサポートしている場合のみ）。**Enabled** (有効) 設定にした場合、複数の高度なグラフィックスカードが使用されている場合、オペレーティングシステムを読み込み中に起動することができない場合があります（4 GB制限の仕様のため）。

☞ **Re-Size BAR Support**
Resizable BAR のサポートを有効または無効にします。

☞ **SR-IOV Support**
Single Root I/O 仮想化 (SR-IOV) のサポートを有効または無効にする。

☞ **Onboard LAN Controller**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目を**Disabled**に設定します。

■ Gigabyte Utilities Downloader Configuration

☞ **Gigabyte Utilities Downloader Configuration**
OSに入ってから自動的にGIGABYTE Control Centerをダウンロードして、インストールするかどうかを判断することができます。インストールの前に、システムがインターネットに接続されていることを確認してください。

■ USB Configuration

☞ **Legacy USB Support**
USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。

☞ **XHCI Hand-off**
XHCI/ハンドオフに対応していないOSでも、XHCI/ハンドオフ機能を有効／無効に設定できます。

☞ **USB Mass Storage Driver Support**
USBストレージデバイスの有効/無効を切り替えます。

☞ **Port 60/64 Emulation**
入出力ポート 64hおよび60hについてエミュレーションの有効/無効を切り替えます。MS-DOS または USB デバイスをネイティブでサポートしていないオペレーティングシステムで USB キーボードまたはマウスをフル レガシ サポートするにはこれを有効にします。

☞ **Mass Storage Devices**
接続された USB 大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。

■ **NVMe Configuration**
取り付けられている場合、M.2 NVME PCIe SSD に関する情報を表示します。

■ **SATA Configuration**

☞ **SATA Mode**
チップセットに統合されたSATA コントローラー用のRAIDの有効/無効を切り替えるか、SATA コントローラーを AHCI モードに構成します。

- ▸▸ RAID　SATA コントローラーに対してRAIDモードを有効にします。
- ▸▸ AHCI　SATA コントローラーを AHCI モードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI) は、ストレージドライバが NCQ (ネイティヴ・コマンド・キューイング) およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。

☞ **NVMe RAID mode**
M.2 NVMe PCIe SSDを使用してRAIDを構成するかどうかを設定できます。

☞ **Chipset SATA Port Enable**
統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。

☞ **Chipset SATA Port Hot plug**
各SATAポートのホットプラグ機能を有効または無効にします。

☞ **Chipset SATA Port**
接続されているSATAデバイスの情報を表示します。

■ **Network Stack Configuration**

☞ **Network Stack**
Windows Deployment Servicesサーバーの OSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。

☞ **IPv4 PXE Support**
IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **IPv4 HTTP Support**
IPv4のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **IPv6 PXE Support**
IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

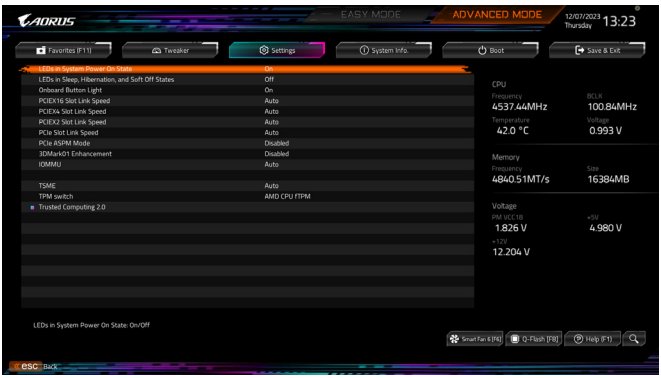
☞ **IPv6 HTTP Support**
IPv6のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **PXE boot wait time**
PXEブートをキャンセルするための、<Esc>キー入力待ち時間を設定できます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **Media detect count**
外部メディアの存在を確認する回数を設定できます。**Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

■ **Ethernet Controller / PCIe GBE Family Controller**
このサブメニューは、LAN 構成と関連する構成オプションの情報を提供します。

■ Miscellaneous



☞ LEDs in System Power On State

システムの電源が入っているときに、マザーボードのLED照明を有効または無効にすることができます。

- ▸▸ Off　　システムがオンのときに、選択した照明モードを無効にします。
- ▸▸ On　　オンシステムがオンのときに、選択した照明モードを有効にします。

☞ RST (MULTIKEY)

システム ・リセットボタンの機能を設定できます。

- ▸▸ HW Reset　　このボタンを使用して、システムをリセットします。
- ▸▸ LED On/Off　　このボタンを使用して、マザーボードの LED をオン/オフします。
- ▸▸ BIOS Setup　　このボタンを使ってBIOSセットアップに入ります。
- ▸▸ Safe Mode　　このボタンを使用して、システムをセーフモードで起動します。

☞ Onboard Button Light

システムの電源が入っているときに、オンボードクイックボタンのLED照明を有効または無効にすることができます。

☞ PCIEX16 Slot Link Speed

PCIEX16 スロットの動作モードを設定します。各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

☞ PCIEX4 Slot Link Speed

PCIEX4 スロットの動作モードを設定します。各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

☞ PCIEX2 Slot Link Speed

PCIEX2 スロットの動作モードを設定します。各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

☞ PCIe Slot Link Speed

PCI Express スロットおよび M.2 コネクターの動作モードを設定します。各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。

☞ PCIe ASPM Mode

チップセットのPCI Expressバスに接続されたデバイスのためのASPMモードを設定することができます。

☞ 3DMark01 Enhancement

一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。

☞ **IOMMU**

AMD IOMMUサポートの有効/無効を切り替えます。

☞ **TSME**

TSME のサポートを有効または無効にします。

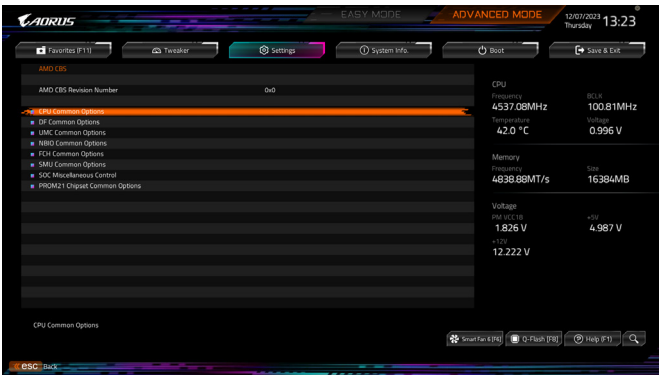
☞ **Trusted Platform Module**

マザーボード上の SPI_TPM ヘッダーに取り付けられた TPM モジュール (オプション品) または AMD CPU に統合された TPM モジュールによって提供される TPM 2.0 機能を有効または無効にします。

■ **Trusted Computing 2.0**

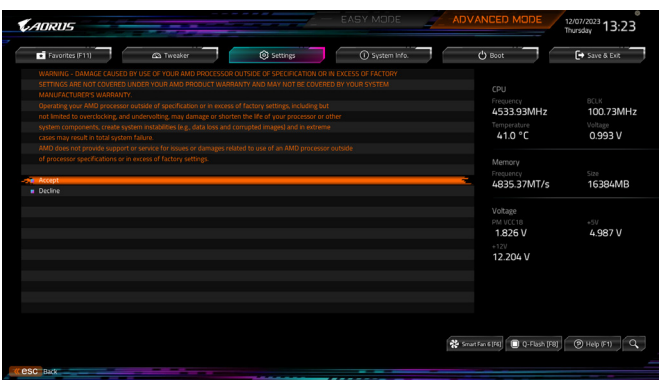
Trusted Platform Module (TPM) を設定できます。

■ AMD CBS



このサブメニューには、AMD CBS関連の設定オプションがあります。

■ AMD Overclocking



このサブメニューでは、AMDのオーバークロック関連の設定項目が用意されています。

■ PC Health

☞ Reset Case Open Status

- ▸▸ Disabled　過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。
- ▸▸ Enabled　過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、**Case Open** フィールドに「No」と表示されます。

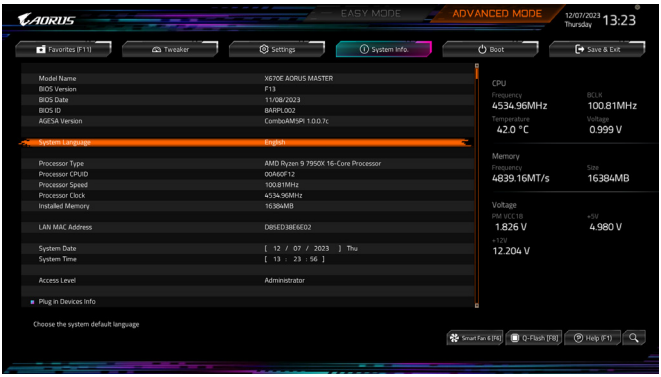
☞ Case Open

マザーボードの CI ヘッダに接続されたケース開閉の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status** を **Enabled** にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

☞ CPU Vcore/CPU VCORE MISC/CPU VDD18/PM VDD1V/+3.3V/+5V/PM VCC18/+12V/CPU VCORE SOC

現在のシステム電圧を表示します。

System Info.



このセクションでは、マザーボード モデルおよび BIOS バージョンの情報を表示します。また、BIOS が使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

☞ **System Language**
BIOS が使用する既定の言語を選択します。

☞ **System Date**
システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

☞ **System Time**
システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:00:00 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

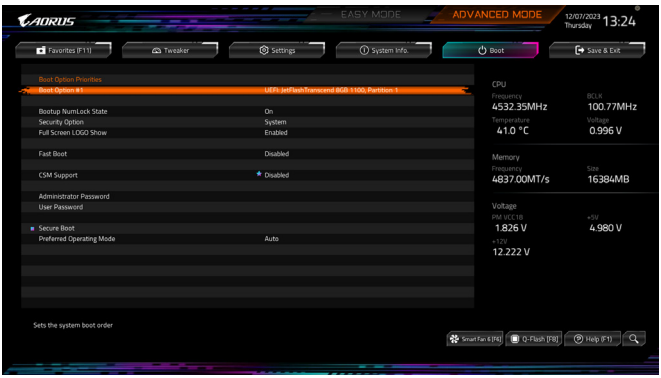
☞ **Access Level**
使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセス レベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では **Administrator** (管理者) として表示されます。)管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することが可能です。ユーザー レベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

■ **Plug in Devices Info**
PCI ExpressおよびM.2デバイスが取り付けられている場合は、それらのデバイスに関する情報を表示します。

■ **SPD Info**
取り付けられているメモリの情報を表示します。

■ **Q-Flash**
Q-Flash ユーティリティにアクセスしてBIOS を更新したり、現在のBIOS設定をバックアップしたりできます。

Boot



☞ **Boot Option Priorities**

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。起動デバイス リストでは、GPT 形式をサポートするリムーバブル ストレージ デバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 11 (64 ビット) など GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 11 (64 ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI:」が付いた光学ドライブを選択します。

☞ **Bootup NumLock State**

POST 後にキーボードの数字キーパッドにある NumLock 機能の有効 / 無効を切り替えます。

☞ **Security Option**

パスワードは、システムが起動時、または BIOS セットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Administrator Password/User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▸▸ Setup　パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
- ▸▸ System　パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。

☞ **Full Screen LOGO Show**

システム起動時に、GIGABYTEロゴの表示設定をします。**Disabled** にすると、システム起動時に GIGABYTE ロゴをスキップします。

☞ **Fast Boot**

Fast Boot を有効または無効にして OS の起動処理を短縮します。**Ultra Fast** では起動速度が最速になります。

☞ **SATA Support**

- ▸▸ Last Boot SATA Devices Only　以前の起動ドライブを除いて、すべての SATA デバイスは、OS 起動プロセスが完了するまで無効になります。
- ▸▸ All SATA Devices　オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 SATA デバイスは機能します。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **NVMe Support**

NVMeデバイスを有効または無効にすることができます。
この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **VGA Support**

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

- ▸▸ Auto　従来のオプション ROM のみを有効にします。
- ▸▸ EFI Driver　EFI オプション ROM を有効にします。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **USB Support**

- ▸▸ Disabled　OS ブートプロセスが完了するまで、全USB デバイスは無効になります。
- ▸▸ Full Initial　オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 USB デバイスは機能します。
- ▸▸ Partial Initial　OS ブートプロセスが完了するまで、一部の USB デバイスは無効になります。

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この機能は無効になります。

☞ **NetWork Stack Driver Support**

- ▸▸ Disabled　ネットワークからのブートを無効にします。
- ▸▸ Enabled　ネットワークからのブートを有効にします。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

☞ **CSM Support**

従来のPC起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。

- ▸▸ Disabled　UEFI CSMを無効にし、UEFI BIOS起動プロセスのみをサポートします。
- ▸▸ Enabled　UEFI CSMを有効にします。

☞ **LAN PXE Boot Option ROM**

LANコントローラーの従来のオプションROMを有効にすることができます。**CSM Support** が **Enabled**に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Storage Boot Option Control**

ストレージデバイスコントローラーについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

- ▸▸ Disabled　オプションROMを無効にします。
- ▸▸ UEFI Only　UEFIのオプションROMのみを有効にします。
- ▸▸ Legacy Only　レガシーのオプションROMのみを有効にします。

CSM Support が **Enabled**に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Other PCI Device ROM Priority**

LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスROMなどを起動させる設定ができます。UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

- ▸▸ Disabled　オプションROMを無効にします。
- ▸▸ UEFI Only　UEFIのオプションROMのみを有効にします。
- ▸▸ Legacy Only　レガシーのオプションROMのみを有効にします。

CSM Support が **Enabled**に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Administrator Password**

管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。ユーザー パスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することが可能です。

☞ **User Password**

ユーザー パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード (またはユーザー パスワード) を入力する必要があります。しかし、ユーザー パスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

注：ユーザーパスワードを設定する前に、最初に管理者パスワードを設定してください。

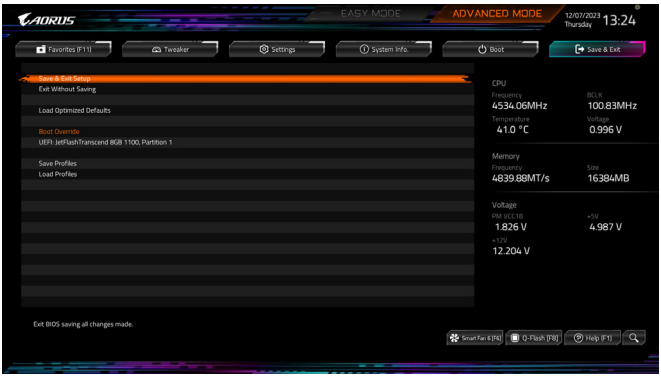
■ **Secure Boot**

セキュアブートを有効または無効設定することができます。**CSM Support** が **Disabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Preferred Operating Mode**

BIOSセットアップに入った後に、EasyモードとAdvancedモードのどちらに入るかを選択できます。**Auto**は前回使用したBIOSモードに入ります。

Save & Exit



☞ **Save & Exit Setup**

この項目で <Enter> を押し、**Yes**を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No**を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

☞ **Exit Without Saving**

この項目で <Enter> を押し、**Yes**を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**No**を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。

☞ **Load Optimized Defaults**

この項目で <Enter> を押し、**Yes**を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。

☞ **Boot Override**

直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで <Enter> を押し、**Yes**を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。

☞ **Save Profiles**

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1 ～ セットアッププロファイル 8 として保存することができます。<Enter>を押して終了します。または**Select File in HDD/FDD/USB**を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。

☞ **Load Profiles**

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter> を押して完了します。**Select File in HDD/FDD/USB**を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後のBIOS設定 (最後の既知の良好レコード) に戻すなど、BIOSが自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。